

ギャラリー 太田口 NEWS

発行者
ギャラリー太田口
〒930-0063
富山市太田口通り1-5-7
Tel:03-5286-3281
Fax:03-3999-5596

編集後記
まちなか再生懇談会が無事終了しました。このようなイベント開催は、私自身初めての体験で、人が集まってくれるのか、意見が出るのか、不安でたまらなかったのですが、当日は40人近い方が集まり、まずまずの成功を収め、ほっと胸を撫で下ろしています。今回、まちなか再生懇談会の議論を「ギャラリー太田口NEWS」としてまとめてみました。これを読んで、議論の中身を再確認してもう一度考えるきっかけになればと考えています。また、参加できなかった、参加しなかった住民・関係者の方々の理解の一助になればと考えております。
早稲田大学助手 高口洋人
修士 須田健士
修士 松波克登史

太田口の再生を考える



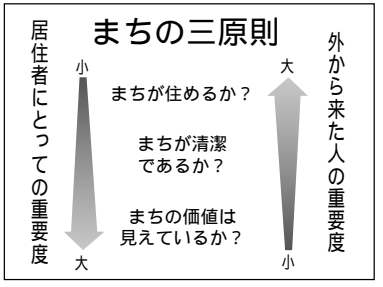
左 前野まさる先生 右 広瀬 誠先生

去る五月二二日、日枝神社において太田口通り商店街周辺のまちづくりを考える「太田口まちなか再生懇談会」(共催 太田口通り商店街振興組合、太田口通り一丁目町内会、早稲田大学尾島研究室)が開催されました。このような機会が開かれるのは太田口では初めて。懇談会では元東京芸大教授の前野まさる先生(富山短大客員教授で郷土史家の広瀬誠先生、早稲田大学教授の尾島俊雄先生(太田口出身)のほか、太田口の関係者約四〇人が参加、太田口の再生について活発な意見の交換が行われました。ここでその一部をご紹介します。

前野まさる先生講演
長年にわたり東京や岡山のまちづくりに携わった経験から、まちを元気にするいくつかの条件に気づきました。それが次の三つです。

- 一 まちの価値が見えてくるか
- 二 まちが清潔であるか
- 三 まちが住めるか

居住者からすると、三・二・一の順番、外から来た人には、一・二・三の順番で重要になります。このバランスが大切なのです。



まちなか再生懇談会が無事終了しました。このようなイベント開催は、私自身初めての体験で、人が集まってくれるのか、意見が出るのか、不安でたまらなかったのですが、当日は40人近い方が集まり、まずまずの成功を収め、ほっと胸を撫で下ろしています。今回、まちなか再生懇談会の議論を「ギャラリー太田口NEWS」としてまとめてみました。これを読んで、議論の中身を再確認してもう一度考えるきっかけになればと考えています。また、参加できなかった、参加しなかった住民・関係者の方々の理解の一助になればと考えております。



左 前野まさる先生 右 広瀬 誠先生

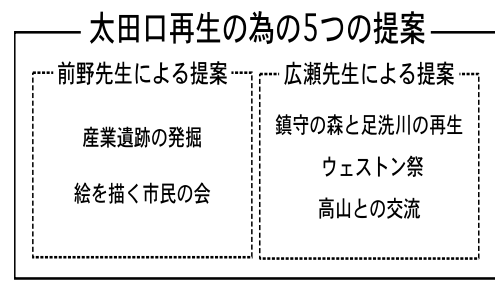
域汚染のシグナルなのです。空き家を何らかの形で地域のために活用できるような方法を考える事が大事です。空き家をギャラリーにするのも一つの方法でしょう。このようなパフォーマンスというか、イベントは地域の人の心を一つにし、情報の発信源となります。いろいろな工夫をしてまちの価値が外部の人に見えるようにする事が大切です。足洗川は産業遺産? 近年、政府も日本の産業発展に寄与した建物等を産業遺産として保存し始めています。足洗川も以前は運河として使われていたならば立派な産業遺産といえます。発掘調査を行い、その遺構ががらば、地域のキャラクターとなり、人も集まってくるのではないのでしょうか。特に今は全国的に田や用水、運河などの産業遺産の調査・保護が進んでいるので、是非、市や県を動かして発掘調査をやってみて下さい。

大事なのは、地域の人の心です。地域の人の心は、自分の地域について、誇りを充分持っている、それを引き出すことが大事なのです。シンボリックなサインで何が何処にあるか指し示すのも重要で効果があります。しかし、太田口通りには地名の由来の痕跡や由緒を分らせる物などはほとんどありません。太田口は住めるのか? 三原則の中の二に該当するのが空き家の問題です。空き家というのはまちの危険信号で経済意欲の低下地

てはどうでしょう? そして、展覧会を太田口ギャラリーで開催すれば人が来るのではないのでしょうか。また、太田口の「いいところ探し」を子供と一緒にやってみるのはいかがでしょうか。

広瀬誠先生講演

ウエスタン祭 太田口通りというのは富山城下と太田地方との接点であり、歴史的にみても大変意味のある通りでありました。立山への最も便利な道であり、飛騨街道の起点でもありました。過去には飛騨街道を通過して、日本アルプスの父といわれたウォルター・ウエスタンが人力車にのって富山にやってきたということもあつたようです。このような歴史を生かして、「ウエスタン祭」を開催したらどうでしょうか。鎮守の森の復活 太田口通りを古くから流れる足洗川は、一休さんの伝説や、常願寺川と神通川とを結びつた、歴史的にも、富山の人たちの生活にとっても重要な意味のある川でした。今は暗渠となり、その川の姿を見ること



は難しく、わずかに麩香神社の裏側でしか見ることができません。この川を掘り起こし、元のように姿を見せること、せせらぎのある心休まる場所を取り戻し、同時に日枝神社の鎮守の森を復活させ、清らかな環境を作っていく事も、歴史を生かしていく上で重要なのではないのでしょうか。高山との連携 日枝神社に関しては、その由来は諸説ありますが、比叡山の比叡大社から分かれたのは、間違いありません。高山の日枝神社との交流を深め、一年に一度でもいいから、共同イベントをやるといいのではないのでしょうか。

まちの再生にはそのまちの中心になる「神様」・「求心力」がある。そのまちの求心力がなければ人が住みたいとは思いません。太田口には麩香神社 日枝神社の境内に職人・木工の神を祀った麩香(あらか)神社という小さな神社があります。私たちが考えているのは、この麩香神社を中心に据え、再び求心力のある住めるまちに再生するというものです。まちを結界に まず神社の結界を作り、他の地域との境界を作り、まちに意味を持たせませ。鳥居などで目に見える形で

会場では皆真剣に聞き入っており、住民の方の意気込みが感じられました

早稲田大学尾島研究室の提案



駐車場の整備事業
・非効率な軍営状態になっており、日枝神社と太田口通り商店街の分断化の原因ともなっている
・駐車場の整備を行う。
・計画地の出入り口に駐車場を設けることで、計画地内の交通を制限し、歩行者の回遊性を高める。
・計画地全体の駐車場を管理することで、商店ごとに個別に駐車場を設ける必要性が無くなる。

足洗川の再生
・太田口は日枝神社の氏子区域であることから、足洗川を氏子区域との境目として再生する。
・近代化を迎えるにあたり暗渠となっていた足洗川であるが、駐車場整備を行うことで計画地内の車交通を制限できるため足洗川の再生が可能となる。

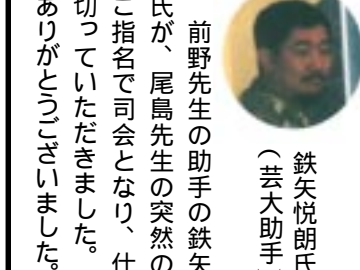
尾島研究室の提案

(高口助手が発表)
街に求心力を まちなかの再生には何よりそこに住むということが必要。しかし単にマンションを作れば人は住むようになるのでしょうか? まちの再生にはそのまちの中心になる「神様」・「求心力」がある。そのまちの求心力がなければ人が住みたいとは思いません。太田口には麩香神社 日枝神社の境内に職人・木工の神を祀った麩香(あらか)神社という小さな神社があります。私たちが考えているのは、この麩香神社を中心に据え、再び求心力のある住めるまちに再生するというものです。まちを結界に まず神社の結界を作り、他の地域との境界を作り、まちに意味を持たせませ。鳥居などで目に見える形で

境界を示します。結界内では歩行者専用とし、歩いて暮らせるようにします。また、現在駐車場になっている日枝神社境内を再び鎮守の森として再生し、住まいや伝統工芸などのイベントを開催し、まちのイメージを作っていきます。さらに、富山国際職業学院と協力し、庭園や家屋を時間をかけて整備し、神社結果としてふさわしい外観を整えていきます。このまちづくりはたまたま麩香神社が太田口にある縁があるからこそできることと。この縁を最大限活かすべきだと思います。

参加された住民の意見
平尾宮司 富山と高山の日枝神社や他の神社との交流は、神社としては以前からありませ。しかし、高山の日枝神

社との交流は機会があれば是非交流したいです。駐車場が今のようになつたのは、昭和四〇年頃です。車の量が増え商工会議所の要請を受けて作りまし。しかし今は状況も変わり、このまま駐車場をずっと続けるかは白紙の状態です。また、今でも駐車場周辺はできる限り緑化につとめています。広瀬先生のウエスタン祭の話は魅力的です。商店街としてもやりやすい。林氏(町内会長) 商店街に子供や若い人がいなくなっているのが気懸かりで、もっと若い人に町に来て欲しい。中村氏(取材にきたチューリップテレビ) 前野先生の講演の鉄矢氏が、尾島先生の突然のご指名で司会となり、仕切っていただきました。ありがとうございました。



鉄矢悦朗氏 (芸大助手)